



☆ AWC事務局便り 11月号 ☆

みんなで家の補修をしました

「おたがいさまプロジェクト」は、開始から間もなく2年となります。小さなプロジェクトですが、着実に、早く、必要なものを必要な人へ、温もりも一緒に届けているような気がします。

10月に、昨年支援していた私設寮の子どもたちが中心となって、HIVに感染しているシングルマザーの家族の家の補修を行いました。この家庭には昨年、生活費の支援も実施しました。成人している娘さんからもサポートがあり、現在は暮らしの面では自立できたのですが、家の補修のような出費は家計の負担になります。タイは熱帯の国ですが、北部の山の中は冬は夜の冷え込みなどもあり、家を直して過ごしやすいすることは、HIV感染の女性にとっては大変重要です。

この補修の仕事を中心になって行ってくれたE君は、タイ国籍がなく、家庭も複雑で親の経済的な援助も完全に断ち切られている状態です。パイナップルの加工場に住み込んで、わずかな賃金で衣食を賄っています。しかし、困ったときはお互い様の精神で、ボランティア活動を行っています。

「おたがいさまプロジェクト」のタイコーディネーターである、ギー先生を中心に助け合いのネットワークが出来てきたことは素敵なことだと思います。自分自身が困難な状況にある中で、周りの人を思いやるE君の成長や頑張りから学ぶことは大変多いです。日ごろ大量生産、大量消費、大量廃棄の暮らしの中で、自分のことばかりを考えがちな私たちは、困った時はお互い様の気持ちで、周りの人に優しくなれる、そんな精神の崇高さを改めて彼らから教えていただき、見習わなければならないと感じています。



スラムの女性に

9月にマリ代表と、山本がチェンマイに赴き、ストリートチルドレンやスラムの支援をしているドロップインセンターを訪問しました。子どもたちと交流し、スラムに住む人々の状況などをお聴きした時に、不正出血が続いているけど病院に行けない女性の話を伺いました。

出血の手当てをするためのナプキンも手に入りにくいと知り、近くの薬局に行き、そこにあるだけのナプキンを買ってその女性に届けてくれるように頼みました。ドロップインセンターの代表のエック先生がとても喜んで、すぐにスラムに届けると約束してくださいました。何とか医療機関に繋がり、早く回復するようにと祈っています。



キルトを届けました

今年も、支援キルトの会ふーぶ様からキルトを8枚ご寄付いただき、9月2日、チェンライ県メーヌワイ郡のバーンパナサーリー保育園に届けました。この保育園はアカ族、ラフ族と中国人の3歳～4歳の子どもたち64人が通っています。

皆様が心を込めて作られたキルトを先生も、子ども達もとても喜んでいました。子どもたちの健やかな成長に大いに役立つことと思います。また、お預かりしたキルトの1枚をウェインパオ県パーツキャオ村の村長さんのお宅に8月に赤ちゃんが生まれたとのことで、お祝いにさせていただきました。



世界AIDSデー in YOKOHAMA

12月1日は世界AIDSデーです。現在は治療法も確立しましたが、感染者への理解はまだ必要です。11月30日に、よこはまそごう前の広場で「世界AIDSデー in YOKOHAMA」が開催されます。AWCは、例年通りプラバンでレッドリボンを作るワークショップを行います。

